

# 議事要旨

会議名	令和5年度（2023年度）第3回 八王子市地域づくり推進基本方針改定懇談会	
日時	令和6年（2024年）1月22日（月）午後6時30分～8時00分	
場所	八王子市保健所（たま未来メッセ）502会議室	
出席者氏名	参加者	長房中学校区地域づくり推進会議参加者（中学校PTA） 野副 弘毅 氏 川口中学校区地域づくり推進会議参加者（町会自治会） 荒木 紀行 氏 みなみ野中学校区地域づくり推進会議参加者（NPO団体） 野牧 宏治 氏 南大沢中学校区地域づくり推進会議参加者（民生委員） 吉村 由美 氏 NPO法人 dattochi home（ダットッチホーム） 理事 田中 久乃 氏 市民活動推進部長 小山 等 都市計画部長 守屋 清志 学校教育部長 今川 邦洋 総合経営部地域づくり担当部長 新納 泰隆 総合経営部地域づくり担当課長 伊東 健一
	事務局	総合経営部経営計画課地域づくり担当 主査 興梠 翔大 総合経営部経営計画課地域づくり担当 主任 橋本 宏子 総合経営部経営計画課地域づくり担当 主任 和田 健太 総合経営部経営計画課地域づくり担当 主任 山北 晴奈
欠席者氏名	東京都立大学 法学部 教授 大杉 覚 氏 法政大学 社会学部 准教授 谷本 有美子 氏 一般社団法人 八王子冒険遊び場の会 理事 足立 純一 氏 福祉部長 松岡 秀幸	
議題	（1）「新・地域づくり推進基本方針」策定に向けた検討について ア 新・基本方針の全体像 イ 市の施策（＝行政として用意するしくみ） ウ 推進会議参加者向けアンケート結果 エ スケジュール・今後の予定 （2）その他	
公開・非公開の別	公開	
非公開理由	—	
傍聴人の数	なし	
配付資料名	資料1 「新・地域づくり推進基本方針」策定に向けた検討について 資料2 新・基本方針の全体像 資料3 新たな地域づくりビジョン実現に向けたロードマップ 資料4 推進会議参加者向けアンケート結果 参考資料 前回懇談会までの振り返り	

## 次第1 開会

### <配布資料の確認及び開催方法の説明>

本懇談会は公開して行うこと、議事要旨における市職員及び座長以外の参加者について発言者名を記載しない形で作成し市ホームページで公開を行うこと、会議風景を写真撮影することについて、参加者より了承を得た。

また、みなみ野中学校区地域づくり推進計画が完成したため、机上配布している案内を行った。

## 次第2 報告

### 【参加者】

これまでの懇談会では「ゆるやかさ」「楽しい」がキーワードという話が出ており、地域活動の裾野を広げる取組として、CCC（Clean up・Coffee・Club）という活動を八王子市で12月10日の朝9時に試行的に行った。

この取組は、池袋からスタートし、全国に拡大して今や26の拠点ができている。1時間ほどのイベントで、ごみ拾いをした後にコーヒーを飲み交流するというもの。私の職場の後輩が仕掛け人のため、実施に際しては、立ち上げの経緯や思い、ノウハウ等のインタビューを行った。なお、今回は自身が理事を務めるNPO法人の拠点を開催地として行った。

やってみたところ、通りすがりで参加してくれた70代の男性、ごみ拾いが好きで高尾から自転車できたという親子、コーヒーを提供してくれる人などが参加してくれた。自分のお店でやりたいと言ってくれた方や、自分の地域でもやりたいということで、3月に高尾で開催する予定もある。

人・場所・しくみというポイントで整理し、振り返りを行った結論として、「ゆるやかさ」「楽しそう」「オープン」というキーワードが人を惹きつけ、集まるためには不可欠である。主催側としても、そこまで準備に負担がなく楽しむことができた。何かをやりたい人の背中を後押すために、やらなければならないといった地域活動から、初めの第一歩としてやりたい地域活動に意識を変えていくのもいいのでは。

## 次第3 議題

### (1)「新・地域づくり推進基本方針」策定に向けた検討について

#### 【地域づくり担当課長】

資料1～3を中心に説明。

資料2の全体像は、①地域づくりの必要性②市の施策③目指す地域コミュニティの姿の3段構成で作っており、その上で新たなビジョンを掲げている。資料3は、このビジョン実現に向けてどのような手順を進めていくかを、八王子未来デザイン2040にある「地域のことを自分たちで考え、ともに行動し、みんなの幸せを実現する」という言葉に3つのステップを当てはめて具体化したロードマップとなっている。今後の懇談会では、②→①→③の順で話を伺っていきたいと考えており、今回の懇談会では、この全体像について、新たなビジョンを含めて共有させていただけるか、構成などに問題ないかを聞きたい。加えて、市の施策、具体的な内容について参加者の皆様の視点からご指摘やご意見をいただきたい。

まずは、資料2「新・基本方針の全体像」についてご意見いただきたい。

#### 【参加者】

これまでの議論を踏まえた、違和感のないしっくりくる内容と感じる。「②市の施策」の「支える・つなぐ・掘り起こす」の建付けもよいのではないかと。「支える」の地域づくり団体制度についても川口中学校区で進めており、推進会議での議論を踏まえた取組の実施手法として、よいやり方だと思っている。みなみ野中学校区でもやりたいと考えているが、「地域づくり団体」という用語の定義はしっかりさせた方がよい。市民活動団体との違いや、市民活動支援センターの関与の仕方も気になるところ。

【地域づくり担当部長】

推進会議として活動を始めてみると、銀行口座開設、住所、団体名をどうするかという話が出てきたが、市の作った推進会議としての対応が難しかったため、任意団体として切り分けた経緯がある。推進会議の活動を実行するための団体であり、活動するうえで推進会議の皆さんが必要だと思ったら立ち上げる想定。必ず立ち上げなければいけないというものでもない。

【市民活動推進部長】

市民活動団体との違いということであると、自分たちがやりたいことをやるのが市民活動団体、地域に特化した活動を行う団体が地域づくり団体ということになるのではないかと。被る部分はある。

【地域づくり担当部長】

すでに地域では様々な団体が活動をしていて、そうした団体、メンバーを包括し、一緒に活動する仕組みがない。そこで、協議するプラットフォームの場として推進会議をつくり、活動するための団体として地域づくり団体をつくるイメージ。

【参加者】

庁内連携に関して、町会では現在、協働推進課、防災課、防犯課等とすでに密接に関わっている。「庁内何でも連絡会」を導入するということは、地域づくり担当がこれからすべての窓口として一本化して、他の部署への取次ぎを担うイメージか。

また、アンケート結果について、地域カルテと推進計画の作成意義を問う設問に対して、みなみ野と南大沢は有意義と感じている割合が高く、長房と川口は低めとある。これは、市が説明してきた地域づくりの目的や推進会議で取り組んでいくべき内容が次第に変わってきており、設置時から参加しているメンバーにとっては、当初抱いていたイメージと現状の間に大きなギャップを感じていることが原因ではないか。しかしながら、モデル地区での検証を生かして市でも取組の改善を図っており、みなみ野、南大沢が良くなったのは、反省して良い方向に向かってきていることの現れなのではないか。推進計画の作りをみても、そのような印象を強く受ける。

CCCの取組も参考になった。青少対でも清掃活動を行っており小学生と高校生子どもたちが参加しているが、楽しく感じてもらえる取組ができればと考えている。地域に合ったやり方で、これまでと少し違うやり方をしていきたい。

【地域づくり担当課長】

「庁内何でも連絡会」のイメージは、地域づくり担当が庁内各所管における地域との関係をすべて把握できているわけではないので、4つの中学校区の推進会議で投げかけるものの共有などを考えている。地域の人にもアドバイスいただきながら、徐々に推進会議が地域の窓口になるのが理想と考えている。

【参加者】

庁内で地域での課題や取組を共有するイメージか。これまで通り、付き合いのある所管とは並行してやり取りをして問題ないと認識した。

【地域づくり担当部長】

おっしゃるとおり、付き合いのある所管との関係はこれまで通り。今回の案は、全体をご説明した上で、時間軸としてもう少し先の姿を示し、ステップを踏みながら、今何をすべきかを整理したかった。「庁内何でも連絡会」は、推進会議で地域づくり担当がコーディネートして関係所管と話を進め、行政としてこのようなしくみが必要かをお聞きしながら、全体として取組が展開できるか考えていきたい。

【参加者】

ロードマップの中のSTEP3の姿の実現に近づいたタイミングで全市展開していくのか。

【地域づくり担当部長】

全市展開を行うためには、条例化が必要ではないかと考えている。条例化にあたっては、議会での審議ということも必要になってくる。

【参加者】

それでは、2年前の市長の言葉と異なる。当時は、全中学校区でワークショップをやり、これから推進会議をどんどん立ち上げるとのことだった。一定程度の時間を経た後は、順次市内に広げていくべきでは。

【地域づくり担当部長】

全市展開は目標として掲げているが、現状を検証しながら地域の方々が安心して取り組むことができるしくみをつくったうえで進めていかないと、推進会議の設置が目的となってしまう、結果として全市における地域づくりの推進につながらないのではないかと考えている。

【参加者】

そういうことであれば、中学校区別ワークショップを開いた地域に説明すべき。「うちの中学校区ではいつ始まるのか」という声も聞く。残りの地域で待っている人がいる。そのような人にも、今の市の現状を伝えるべき。

【地域づくり担当部長】

そのための基本方針改定。改定後、市側の方針を地域へお伝えする予定。

【参加者】

「支える」にある、地域づくり担当による地域への伴走型支援とは、具体的にどのようなことか。

【地域づくり担当課長】

推進会議における資料の作成、会場の用意などの他、推進会議で行政にかかわる話があれば、関連所管につなぐということを想定している。

【参加者】

地域によって行政に何を望むかは異なってくると思うので、個別に最適化するという意味か。

【地域づくり担当部長】

立ち上げは丁寧にやっていく必要があるが、立ち上げ自体が目的ではない。立ち上げを含め、何が地域でできるかを一緒に考え、伴走していくイメージ。

【参加者】

CCCの実施は、仕組みができていたからこそ簡単にできた。個別最適化する場合でも、スターターキットを用意し、第一歩を踏みだしやすくする必要がある。

【地域づくり担当課長】

他にもご意見等はないか。

【参加者】

説明資料は、非常によくできていて考えられている。みんなの幸せ、楽しい八王子、住んでいてよかった八王子ということがこのビジョンだと、どの世代でもわかりやすい。「地域自治」という言葉は難しい印象があった。

伴走支援についていうと、南大沢では、はちまるサポートの人が良く顔を出していただいております、それも支援の一部だと思っている。

【参加者】

資料2・3について、初めて見る人には理解するのに大変かもしれないが、今まで関わってきた人にとっては、1枚にまとまっていった腑に落ちる良い資料になっている。これまでは資料が多く、見るのも大変だった。

【地域づくり担当課長】

ビジョンの部分は、大杉先生からのご指摘を踏まえ、考え直したものの。

【参加者】

「ゆるやかな」というキーワードもあり、すんなり入ってきた。よいと思う。

【地域づくり担当部長】

庁内会議では、「ゆるやか」の捉え方は人それぞれという指摘や、わかりにくいというご意見もあった。

「ゆるやか」の部分に関しては、関係性が強すぎても弱過ぎてもダメで、ゆるやかでないといけないうい思がある。これで確定ではなく、現時点の案として共有させていただき、さらに議論を深めていきたい。

【参加者】

先日、近隣の小学校でも、個別のイベントなら手伝ってもいいということで、多くの方が協力してくれたという話を聞いた。何か委員などの役職をお願いするとなると難しいが、運動会や卒業式の手伝いには人手が集まる。ゆるやかに集まった人が、楽しいと感じることが大切。今日の話にもつながる。

【地域づくり担当部長】

新しい取組が生まれたり、この問題をどうしようかという流れになるためには、地域の人と話して交流することが最初のステップ。何か課題を見つけて、その解決のために活動しなさいという話でも、活動するために組織をつくるという話でもなく、自然発生的に活動が生まれるようなくみをまずは行政が用意したい。そして、地域の人に安心して活動していただくのがステップ2。全市に展開するのは、その先のステップだと考えている。

【参加者】

様々な意見が集まってできたビジョンは、誰のためのビジョンか主語がわからなくなる。しかし、今回提示されたビジョンは、「私」という主語が明確になるのでよいと思う。「ゆるやかなつながりから」など、もう少し軽やかな感じでもよいかもしれない。

【参加者】

「地域づくり団体」の「設置方法」について、地域づくり団体はもともと地域にあって、必ずしも推進会議から立ち上げる必要がないので、それを記載したほうがよい。すでにある団体であれば、連携を届け出ることができるとか。

【地域づくり担当部長】

地域づくり団体は、推進会議と一対一の関係で考えている。行政が設置する推進会議に対して、活動にだけ参加したい人でも参加できるような地域づくり団体のしくみにしていきたい。

【参加者】

12スライドの「地域外の人」は、特定の地域に根差さない団体とも連携するという意味合いで理解した。広域に活動する団体もあるので。

【参加者】

Z世代など、価値観で繋がることがあたりまえの世代に対し、地域でつながるということを前面に出すと、かなり価値観が違ってくる。

【地域づくり担当部長】

推進会議には、原則中学校区というある程度の枠組みがあるが、活動については様々な価値観の方がいるので、それを受け入れる形でやっていただきたい。

【参加者】

みなみ野では地域フォーラムをした際に、みなみ野で小中学生を対象にキャリア教育をやりたいという方がいた。人財発掘につながり、いい循環だと思っている。

【地域づくり担当部長】

今後ご意見いただきたいのは、地域人財の育成、担い手の維持について。先進自治体でも、仕組みをつくっても世代交代ができないといった課題がある。推進会議を全市展開していくにあたって、継続性が無いことが分かっているにもかかわらず、果たして展開をしていくことができるのかという自問がある。ご自身が地域で活動していく中で、次の世代に引き継ぐ、または仲間を増やすにあたって、どんな仕組みができればよいと思うか、考えを教えてください。

【参加者】

人財の発掘が重要だと思う。例えば「はちおうじ会議」のように、地域で特徴的な活動をしている人をゲストスピーカーとして招き、活動を紹介してもらおうといったことを連綿とやっていく、そうしたことが発掘につながると思う。

【地域づくり担当部長】

地域の人財育成という視点ではどうか。

【参加者】

ローンを抱える共働きの世代は、物理的に地域活動に参加できない。そうすると退職する 60 歳以上になってからという形になってしまう。人財の発掘、育成についても難しいと思っている。

【参加者】

CCCでは若者、特に大学生をターゲットにしている。楽しい活動をしている少し年齢が上のお兄さんたちがやっているとなると、「やりたい」と思う人がいるのだと思う。また、結婚して子どもができると、初めて地域に出てみるという人もいる。そうした人をターゲットにすると、子どもが手を離れたときに地域に目を向けてくれるかもしれない。

【地域づくり担当部長】

人財発掘・育成については学識の方にもご意見いただきながら、引き続き検討していきたい。

【地域づくり担当課長】

今後のスケジュールについて説明。

参加者、了承。

(2) その他

【地域づくり担当課長】

このほか、何か他の参加者に共有したい情報はるか。

【参加者】

3月23日に、川口中学校区の推進会議と町会自治会連合会の共催で防災講習会をやる。ロープワークやAEDの使用方法など、いざという時のスキルを町会長など地域のリーダーに学んでもらい、それを地域の人たちに教えて広めてもらえるような取組にする。

【参加者】

1月27日に長房小学校でキャリア教育を行う。金融リテラシーの話をしつつ、地元のお寿司屋さんがお寿司をふるまうといった取組。ビデオで撮って公開してもよいのではと思っている。

【参加者】

2月3日に南大沢文化会館で「青少年のための南大沢音楽会」を8つの青少対が連携して実施する。宮上小・中学校、都立大学のグリークラブが参加する予定。

2月10日に南大沢中学校区の推進会議では、推進計画のお披露目会として地域フォーラムを実施する。推進計画のデザインは手にとって見てもらえるように検討を重ね、推進会議参加者でデザインが得意な方にまとめていただいた。

【参加者】

自分が代表を務めるNPO団体のフューチャーセンター虹の会で、会員内で年末に地域づくりの取組を共有した。15名程度参加し、自分の地域でも早くやりたいという声があった。

【参加者】

昨日もCCCの取組を行った。3回目もゆるやかに開催していきたい。

次第4 連絡事項

事務局より、第4回懇談会は4月を予定しており日程は別途調整することを説明。

次第5 閉会